

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2004-536476(P2004-536476A)

【公表日】平成16年12月2日(2004.12.2)

【年通号数】公開・登録公報2004-047

【出願番号】特願2002-548998(P2002-548998)

【国際特許分類】

H 04 B 7/26 (2006.01)

【F I】

H 04 B 7/26 K

【誤訳訂正書】

【提出日】平成17年7月29日(2005.7.29)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

図1は複数のセル12、14、16、18、20、22、24を有する無線通信システム10を図解する。セル12、14、16、18、20、22、24は無線エアーアインターフェースを介してBSC26と通信する。セル12、14、16、18、20、22、24の各々は、地理的および/または送信隣接基地局内のセルから構成される対応する隣接基地局セットを有する。例えば、セル18はセル12、14、16、20、22、24を含む隣接基地局セットを有する。以下IS-95規格と呼ぶ「デュアルモード広域スペクトラム拡散セルラシステムのためのTIA/EIA/IS-95移動局-基地局互換規格」または、以下「cdma2000規格」と呼ぶ「cdma2000スペクトラム拡散システムのための「TIA/EIA/IS-2000規格」により仕様が定められる符号分割多元接続(CDMA)システムのようなスペクトラム拡散送信システムにおいて、スペクトラム拡散信号は同じチャネル帯域幅を占有し、各信号は固有の区別可能な擬似ランダム雑音(PN)系列を有する。CDMAの動作は、この特許出願の譲受人に譲渡され、参照することにより明白に組み込まれる、米国特許第4,901,307(発明の名称:「衛星または地上リピータを用いたスペクトラム拡散多元接続通信システム」)および米国特許第5,103,459(発明の名称:「CDMA携帯電話システムにおいて波形を発生するためのシステムおよび方法」)に記載されている。このようにして、複数のユーザが同じチャネル帯域幅を介して同時メッセージを送信する。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0011】

図2は、MS38と通信する、BS1のラベルが付された基地局32を含む、図1のシステム10の一部を図解する。BS1は図1のセル18内にある。それぞれBS2、およびBS3のラベルが付された2つの他の基地局34、36がそれぞれセル16、24内にある。無線エアーアインターフェースはBS1-32からMS38への通信のための順方向リンク(FL)のための媒体を供給し、MS38からBS1-32への逆方向リンク(RL)のための媒体を供給する。留意すべきはMS38は、BS1-32への信号品質およ

び B S 1 3 2 からの信号品質が悪化するようにシステム 1 0 内を移動するかもしれないという点である。呼を開始するために、M S 3 8 はアクセスチャネル上に送信を送信する。B S 1 3 2 、B S 2 3 4 およびB S 3 3 6 はチャネル割当てメッセージをページングチャネル上に送信する。チャネル割当ては各基地局に対してウォルシュコードインデックスを識別する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 8】

時刻 t 1 においてトリガーが識別されると、B S C 2 6 は隣接基地局 B S 2 3 4 からデフォルトチャネル送信を開始する。時刻 t 2 に対して B S 2 3 4 は M S 3 8 に向けてデフォルトチャネル上に送信を開始する。この送信は B S 1 3 2 からの同一の送信と並行している。トリガーが発生すると、M S 3 8 は所定の待ち時間期間、送信器をディスエーブルにする。時刻 t 3 において、待ち期間が終了し、M S 3 8 は時間期間 Y の間プリアンブルを送信する。同時に、M S 3 8 の A S は A S (0) から A S (1) に変更される。A S (1) において識別される基地局は、最後の P S M M において引用されたすべての基地局である。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 1】

呼の復旧が生じると、M S 3 8 は送信器をディスエーブルにする可能性がある。送信器が再びイネーブルにされると、ハンドオフ完了信号が復旧調節装置 3 1 6 に供給される。ハンドオフ完了信号は復旧調節装置 3 1 6 に所定の P C 信号を発生するように命令する。このようにして発生された P C 信号は、上で述べた初期 R L 送信電力発生のためのいずれかの方式を実現してもよいし、代わりの方法を実現してもよい。ハンドオフ完了信号はマルチブレクサ 3 1 2 を制御するためにも供給される。呼の復旧に続いて、復旧調節装置 3 1 6 により発生される P C 信号は電力調節装置 3 1 0 に送られる。並行して閉ループ電力制御が開始する。閉ループ電力制御が完全に再開されると、ハンドオフ完了信号が無効状態にされ、マルチブレクサ 3 1 2 は電力制御装置 3 1 4 により発生された P C 信号を選択し、電力調節装置 3 1 0 に供給する。復旧調節装置 3 1 6 の動作はソフトウェア命令で動作するマイクロプロセッサ 3 2 0 により実行してもよいし、または効率的な信頼性のある動作のためにハードウェアで実現してもよい。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】図 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図 9】

図 9 は一実施の形態に従って、図 1 のシステムの呼の再生動作をタイミング図のフォームで図解する。